



西松DXビジョン

Ver2.1

2024年 4月 1日

まかせられる人が、いる。



NISHIMATSU



私たちは、デジタルで空間をイノベーションします

私たちを取り巻く社会・環境は急激に変化しており、その変化に適応し、安心して暮らせる持続可能な社会をつくるため、“社会基盤整備”から“社会機能の再構築”へ価値共創活動を拡大し、安心・活力・つながりを提供する西松建設の未来の姿を描き、「西松-Vision2030」を策定しました。

私たちが描く『西松-Vision2030』実現のため、デジタルの観点から貢献する『西松DXビジョン』を策定し、デジタルトランスフォーメーションに取り組んでいます。

西松DXビジョンは、「現場」「ワークスタイル」「ビジネス」の3つの空間を、デジタルで変革する西松建設のあり方を描いています。

- ◆ 現場力がシンカしたスマート現場
- ◆ 仮想と現実が融合した一人ひとりが活躍できるワークスタイル
- ◆ エコシステムで新しいサービスや空間を創り出すビジネス

デジタル活用のみならず、自らの意識や企業風土の変革から全社一丸となって取り組むことで、西松DXビジョンに描く姿に着実に近づき、3つの空間の価値を生み出すことによって、私たち西松建設は持続可能な社会・環境づくりを実現していきます。



西松建設株式会社

代表取締役社長 高瀬伸利

西松DXビジョン (ビジョンマップ)

2030年その先へ 『私たちは、デジタルで空間をイノベーションします』

現場力がシンカした
スマート現場

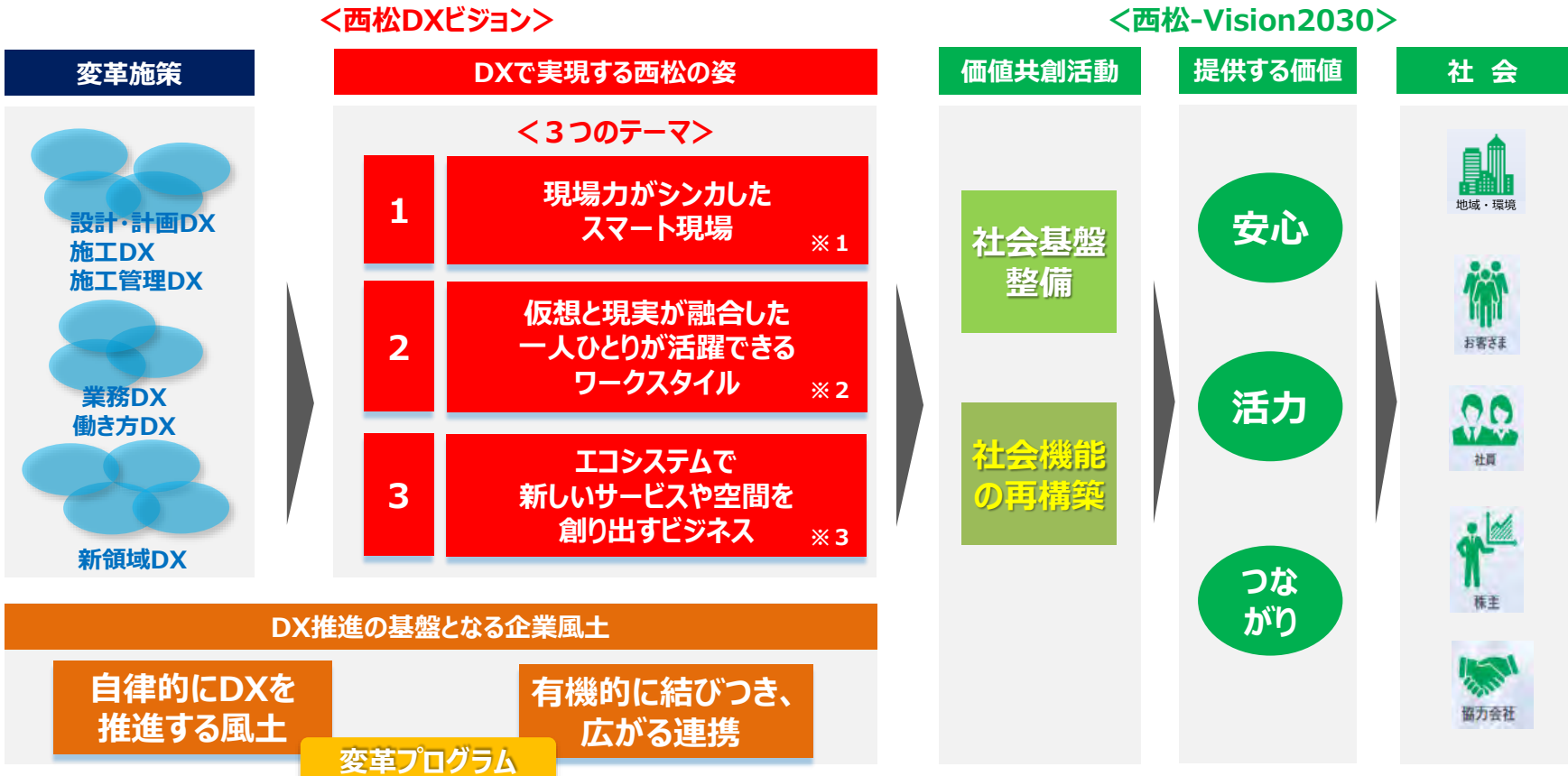
仮想と現実が融合した
一人ひとりが活躍できる
ワークスタイル

エコシステムで
新しいサービスや空間を
創り出すビジネス



西松DXビジョン（構成）

- 西松-Vision2030をデジタル観点で実現する未来の姿として西松DXビジョンを更新。
- DXビジョン達成への道のりとしてロードマップを策定。



※1 シンカ：深化と進化
 ※2 仮想と現実が融合：ネットワーク上に構築された空間と現実が共有された状態
 ※3 エコシステム：異業種との連携で価値を共創できる新しいビジネスの仕組み

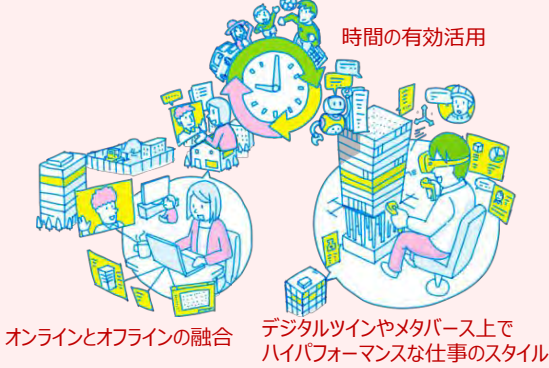
『私たちは、デジタルで空間をイノベーションします』

現場という“空間”、ワークスタイルという“空間”、建造物や不動産、エネルギーを創り出し・使う“空間”を、いままでにない“空間”にします
また、その空間を社員や協力業者、お客さまに提供するとともに、価値を共創する“サービス提供者”と一緒に社会・地域・街・新しいお客さまにもその“空間”を提供していきます

仮想と現実が融合した一人ひとりが活躍できるワークスタイル

仮想と現実が融合した働き方で、ワークライフバランスをとりつつも、高いパフォーマンスを発揮することで、一人ひとりが仕事に充実感を持つことができる“私になる”

※仮想と現実が融合：ネットワーク上に構築された空間と現実が共有された状態



現場力がシカしたスマート現場

これまで培った現場力をデジタル活用でさらに向上させつつ（深化）、過去・現在の状態をデータとテクノロジーで正しく捉え、未来を予測する（進化）ことができる、“スマート（高性能な）現場になる”

※シカ：深化と進化



エコシステムで新しいサービスや空間を創り出すビジネス

建設・エネルギー・不動産等のデータを循環させるエコシステムを形成することで、お客様や社会にいままでにない理想的な空間を提供する“新ビジネスを創り出す”

※エコシステム：異業種との連携で価値を共創できる新しいビジネスの仕組み



自律的にDXを推進する風土

一人ひとりの変革マインドとチャレンジにより変革のスキルを向上させることで、自律的なDXの取組みが推進される



有機的に結びつき、広がる連携

組織を超えた情報連携により新たなチャレンジ機会を見出し、組織横断の取組みを介してさらにネットワークが広がる

西松DXビジョン (効果関連図)

仮想と現実が融合した一人ひとりが活躍できるワークスタイル

<西松-Vision2030>

施設・計画DX

建設技術の革新に関する変革施策

- 山岳トンネルの遠隔・自動施工
- シールドトンネルの省人化・自動化
- BIMを活用したプレファブ化
- BIMを基盤とした作業のロボティクス化

現場の対応力を高める変革施策

- 建設現場のデジタルツイン
- リモート施工管理
- AIによる変更予測シミュレーション
- データドリブな事業運営
- 各業務システムのシームレスな連携
- ステークホルダと情報共有できるシステム

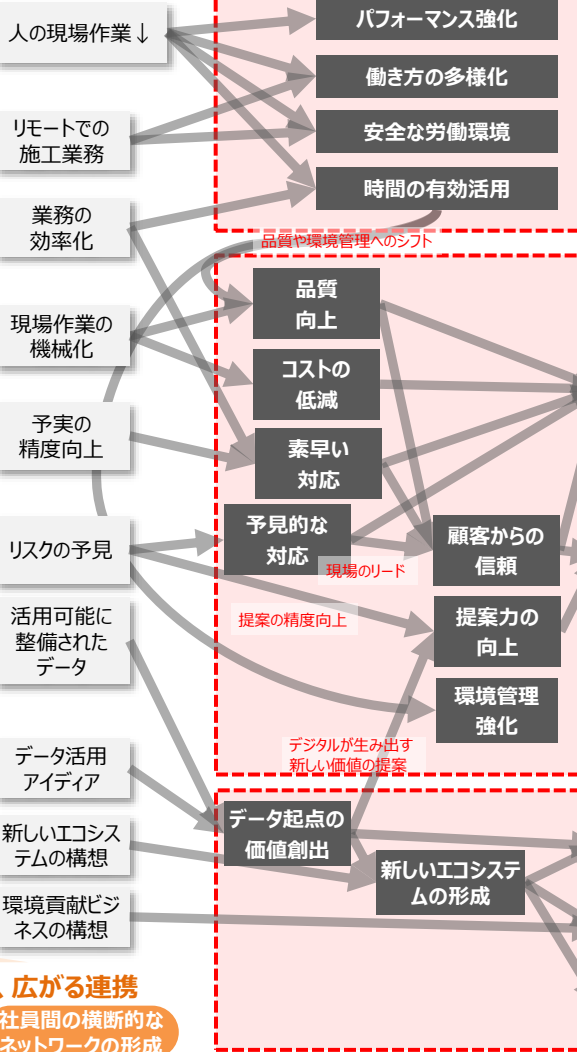
提案力を高める変革施策

- 過去の技術情報・PJ情報に紐づくナレッジの検索・活用
- ナレッジに基づく業務の自動化
- メタバースによる新しいビジネス

新領域DX

デジタル起点の新サービス

- IoT・BIM等を活用したエネルギーマネジメントサービス
- デジタル建材による先進的空間デザインサービス
- AI/IoTデータを活用した物流施設等への新サービス
- 実績&マーケティングデータによる不動産有効活用サービス



デジタル活用による価値を生む仕事へのシフト

品質や環境管理へのシフト

現場力がシンカしたスマート現場

デジタルが生み出す新しい価値の提案



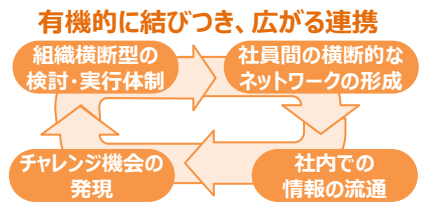
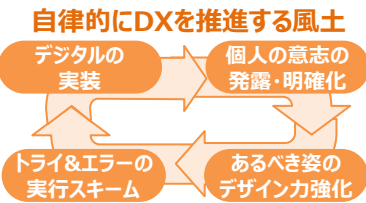
安心



活力



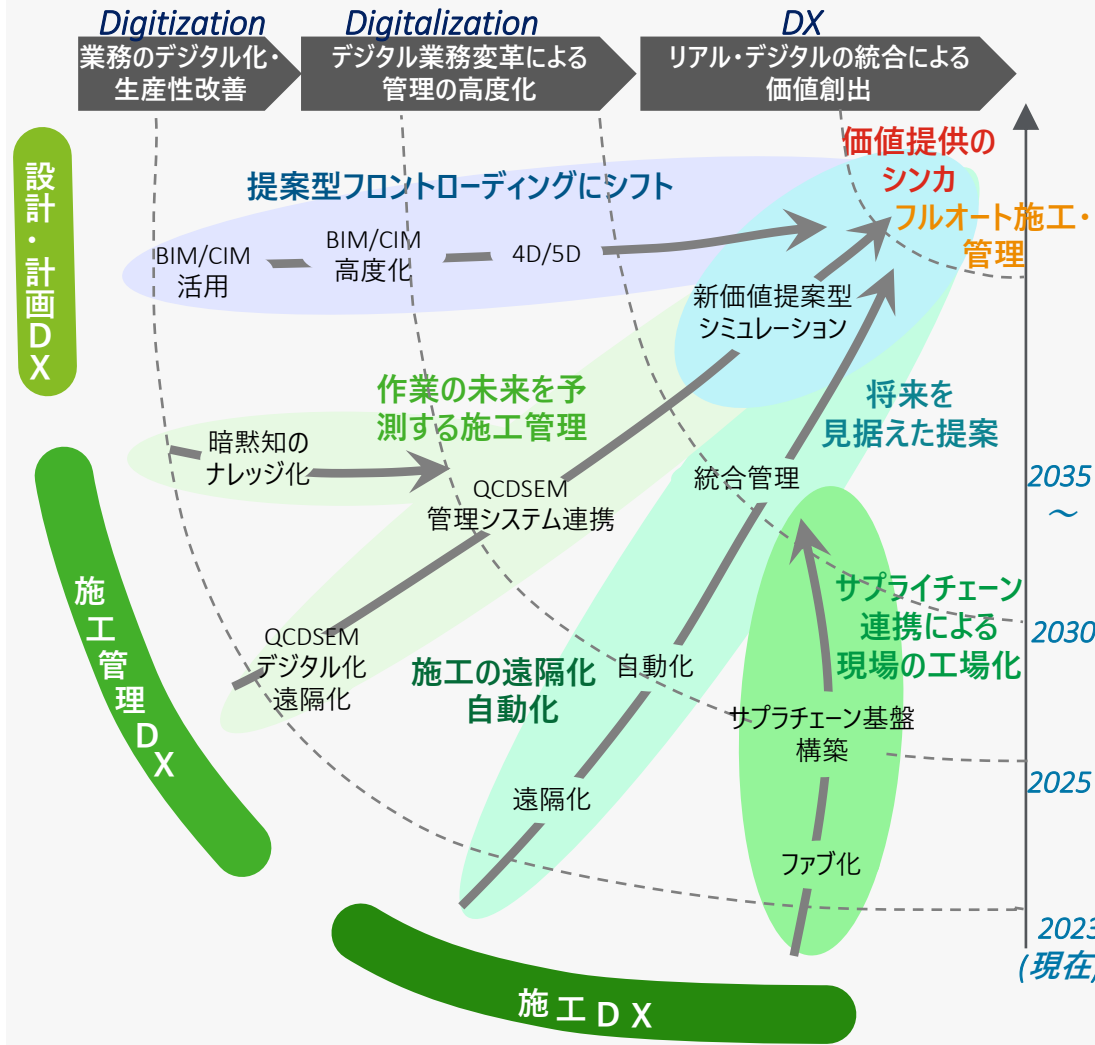
つながり



エコシステムで新しいサービスや空間を創り出すビジネス

「現場力がシンカしたスマート現場」 ロードマップ

「新しい生産システムの構築」



スマート現場 3.0
~2050年

- ロボティクス、AI等の高度利活用で、人による**作業・業務を最小化し、お客さまに合った価値を提案**できている
- **人は専門スキルを高め、問題解決にフォーカス**している
- お客さまへより価値提供ができる**提案型にシンカ**している

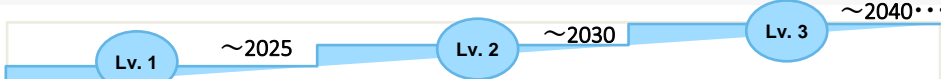
スマート現場 2.0
~2040年

- デジタル情報の更なる高度化や活用の為、**業務や組織が変化**している
- **お客さまへの価値提供が提案型にシフト**している (受注型⇒提案型)

スマート現場 1.0
~2030年

- 個々のデジタルツールが連携し、**プラットフォームとして統合管理が実現**できている
- **属人化しない計画の策定、予実の管理、予想されるリスクや課題への迅速な対応が半自動化**されている
- デジタル業務変革によって、**知識集約型へ業務がシフト**し、定型業務は削減される

(KGI) **DXエンゲージメント**

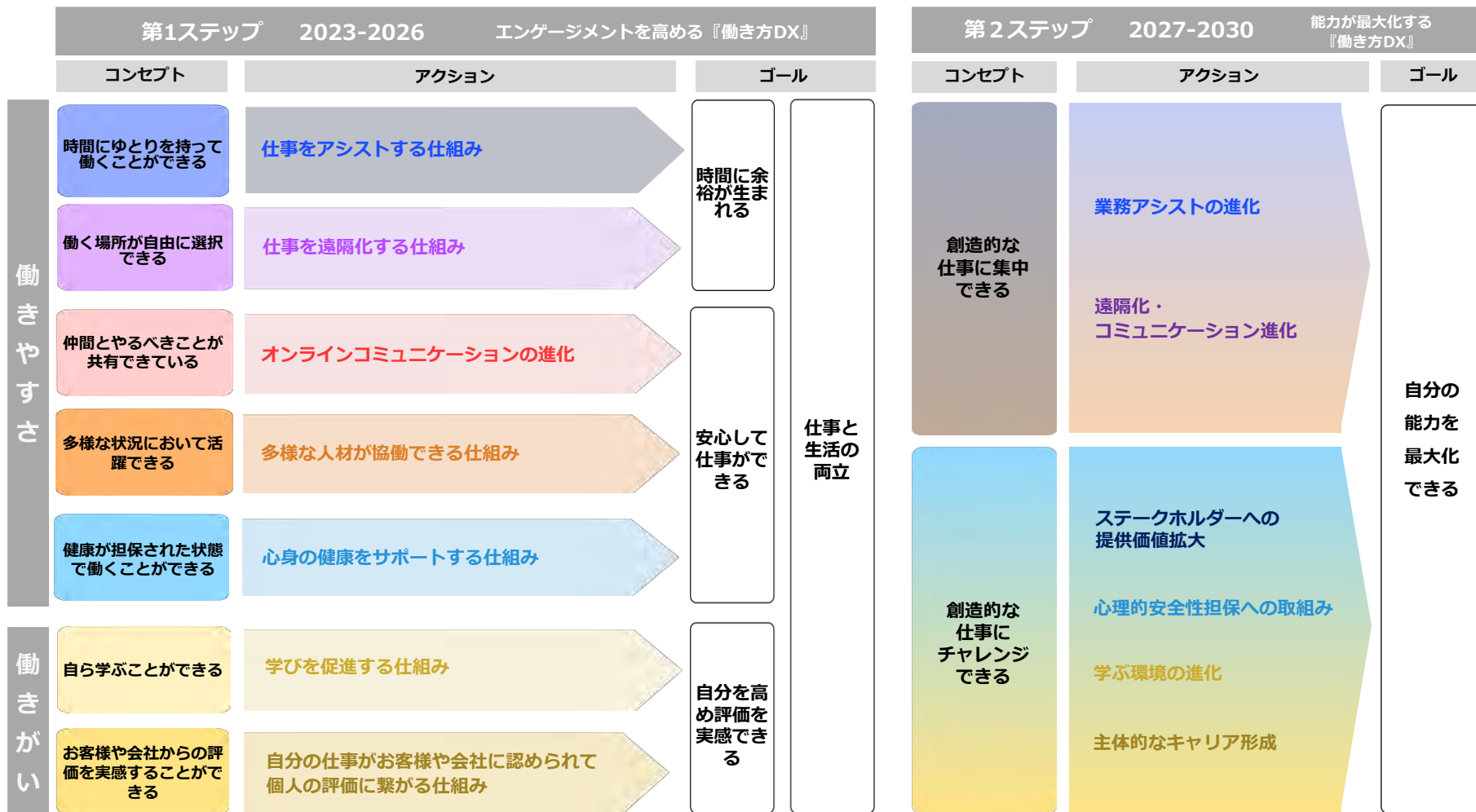


※社員全員が DXへの理解や専門性を高め、DXの効果・恩恵を実感しながら、一丸となってデジタル変革を成し遂げる

「仮想と現実が融合した一人ひとりが活躍できるワークスタイル」 ロードマップ

～働きやすさと働きがい担保され能力が最大化する『働き方DX』～

働く時間や場所の制限を撤廃し、多様な個性を認め仲間とチャレンジできるコミュニケーションを生み出す「働きやすさ」の担保を行う。
 同時に従業員の学びたいスキルや経験の習得と、創出した成果に対するお客様や会社からの評価を実感できる「働きがい」の向上を行う。
 さらに、蓄積したデータを活用した業務の予測・自動化と人材配置の最適化により、創造的な仕事に集中・チャレンジできる環境を作り、一人ひとりの能力の最大化を推進していく。



「エコシステムで新しいサービスや空間を創り出すビジネス」 ロードマップ

ロードマップゴール1

空間の"ものづくり"と"ことづくり"の掛け算で地域の価値を最大化し、賑わいを創り出す

既存建設事業を進化させ都市のインフラづくりなどの都市開発を行うと同時に、地域自体の価値・土地が持つ自然、人、文化などの魅力を拡大させる「ことづくり」を積み上げ、建設にとどまらない領域で地域の発展をサポートする存在を目指す。



ロードマップゴール2

建設業の"ものづくり"と"ひとづくり"のDXを推進し、業界全体の品質の向上および供給力の増加を目指す

建設に携わる人々の環境改善や、希少な技術の継承や拡大をデジタルを使って支援することをはじめとして、建設業界の人材を育て輩出するポジションを目指す。また建設業界全体とその周辺業種からデジタルや技術の格差を取払い、誰もが建設業に関われる世界を目指し、ものづくりの品質と供給力を一歩進化させる。



西松建設役職員一人ひとりが同じ方向を向いてDXに取り組むための意識統一として、『DX行動指針』策定しました。

西松建設がDXに取り組むための5つの行動指針

～デジタル思考で『自分トランスフォーメーション』しよう！～

①.変革する意識を持つ

過去のやり方、今のままでいいという“しがらみ”を捨て、みんなの知恵を集約し、新しい姿ややり方を描く

②.新しい価値に目を向けよう

効率化やコスト効果だけではなく、お客さまの課題解決や先回りしたニーズの提供等の新しい価値に目を向ける

③.オープンマインドで取組もう

他社サービス（他業界含め）や外部の専門家等のアイデア・技術に対して、活用シーンをイメージし、積極的に受け入れ活用する

④.継続的に挑戦しよう

まずはやってみるという意識を持って実行に移し、試行錯誤を繰り返して、諦めずに挑戦し続ける

⑤.自分事として実行しよう


DXは経営者やリーダー（トップ）も、一般の社員（ボトム）も、当事者意識を持って積極的に取り組む

私たちはこの行動指針に沿ってDXを実践し、変革を加速させていきます。

まかせられる人が、いる。



NISHIMATSU

 DX認定 2022年7月にDX認定を取得しました

お問合せ先：DX戦略室 DX企画部
TEL：03-3502-0223 FAX：03-3502-7593